

えんじえるぱにつく☆S  
D

エス  
デー  
ー

作者名…山田 太郎

や  
ま  
だ

た  
ろ  
う

原稿枚数…5枚

「えんじえるぱにつく☆SD」・登場人物表

メシア（17）

何の取柄もないただの高校2年生。

天音ひみこ（17）

天界から花嫁修業の為、下界に降りた天使。おつちよこちよいで超天然。

桜井ちひろ（17）

八方美人で誰とでもすぐに仲良くなれる特技を持っている。

西園寺莉音（17）

西園寺財閥の一人娘。全てにおいて絶望している。

姫野玖音（17）

短気、中二病で言葉も悪いが人一倍正しくまっすぐな心を持っている。

「ねえみんな！ちょっと聞いてよ！」

朝のホームルームを前に教室のドアを荒々しく開き、桜井ちひろは目もくれずいつもの仲間の元へ駆け寄った。

「桜井さんどうしたのですか？今日は一段と騒がしいのですよう」

と、心配そうに天音ひみが窺うとすかさず

「ホントね。あんたいい加減おしとやかになっただらどうなの？」

まるで絶対零度とも思えるほど冷たくその一言を放つ姫野玖音。

しかし、その直後、誰もが予想だにしない事態が起こる。

この聖<sup>セント</sup>天使<sup>エンジェル</sup>学園で唯一、生きる事に絶望を隠しえない社長令嬢の西園

寺莉音が――

「せやで。女子たるもんはいつ何時も絶対可憐チルドレンでいなきやあかんよ」

おそらくボケたのだろう。

関西の血がきつと莉音の中にも流れている。

ただ、【可憐】と表現すればいいだけの場面においてあえて【絶対可憐チルドレン】を強調して伝えたところを見ても、誰かこのボケに気付いてほしいという願いが込められているに違いない。

絶望にまみれた無口な少女の口から一体誰がボケを予想できたのだろうか。

だが、予想だにしない事態は連鎖する。

幸福が人から人へ連鎖する性質を持つと言われているように、不幸もまた連鎖するのだろう。

誰一人として莉音の決死のボケに気付く者はいなかった。

まして、何事もなかったかのようにちひろがわめき散らす。

「んな事言ってる場合じゃないっの！盗まれたの！」

ボケたのに気付かれなくて恥ずかしい——なんて思われたくない莉音はさすがに答える。

「盗まれたって何が？」

何事もなかったかのように間髪入れずにだ。

僕はその一連の流れを見て思わずひとり、吹き出しそうになっていた。

いや、これは間違いなく僕の勝手な妄想。

ただの独りよがりで一方的な【こうだったらいいな】という願望に過ぎない。

でも人間という生き物は思う生き物だ。

妄想、空想、愛想、回想、奇想、幻想…想い馳せずにはいられないのだ。

だからこそ僕は人間らしくこの4人のやり取りを見ていつも妄想する。

僕の多幸福感を満たす為だけに僕は僕の願望通りに妄想する。

そう、あの日まではそれでよかった。

あの日までは——

2.

第2章 桜井ちひろ

幸せな時間は長く続かない。

それは経験則からなのか、それとも周りがみんなそう言っているからいつの間にかそれが真実だと心が肯定してしまっているからなのか僕にはわからないが、今日それが本当なのだと思います。知る事になる。

そういえばまだ僕が何者であり、何者でないかを伝えていなかったね。

僕の名前はメシア。漢字で書くと『愛志空』らしいけれど、僕はこのキラネームっぽい感じがとてつもなく嫌いでこれまで一度も自分の名前を漢字で書いた事がない。

テストの答案用紙にも。歯医者を受付用紙にも。すべてカタカナで書いている。

この世を救う救世主に――という期待を込めて両親から授かった名前だろうけど、どうやらその期待に応える事はできなそうだ。

だって僕は無能なのだから。

この世の理を知ってしまったのだから。

才能が無ければ何もできない。いや、してはいけない。

いくら100の努力をしてようやくレベルを1上げたとしても元より才能のある人間なんてものはたった1の努力で同じくレベル1上げてしまう。

その事実、真実を小学5年生という若い時分に思い知ってしまった僕にはもう、努力をする価値など見いだせなかったのだ。

【モブキャラはモブキャラらしい人生を】

これが僕の座右の銘。

モブキャラっていうのはアニメやゲームに登場する【大して重要な役割を持たない脇役中の脇役】

時に誰かの人生において道端の石ころになったり、野に咲く花になったり。

ただそれだけの存在なのだ。

でもそんなモブな僕でもこうして前向きに笑って毎日を過ごしていられるのには理由がある。

それが彼女、桜井ちひろの存在があるからなのだ。